

事業の概要

関西地域は、デザイン関連の学部を有する大学等が多く集積しており、毎年多くのデザイナーが生み出されるなど、国内における「デザインの知の拠点」となっている。

一方、その教育課程においては、多くの大学でデザインスキルについての教育は重視しているものの、知的財産権及び知的財産権を含めたデザインマネジメントに関する教育は十分に行われていないのが現状である。

しかしながら、実際に社会に出てデザイナーとして実務を行うには、これら知識や能力が不可欠であり、これらが欠けていると実業界では思わぬ不利益を被る可能性がある。特に、東京への一極集中化が進むなか、中小企業の多い関西地域にあって、デザイナーの果たすべき役割は単に造形的なスキルだけでは十分とは言えない。

そこで、本調査事業においては、企業経営の中でデザインを戦略的に活用しデザイン経営の実践を図ることができる人材を育成することを目的に、高等教育機関等で活用可能な、知的財産権についての知識と実践的なデザインマネジメントを学ぶ講座のカリキュラムを開発・実施し、その評価結果をとりまとめたものである。

事業の進め方としては、まず始めに、カリキュラム検討の基礎資料とするため、知的財産権とそのマネジメント教育に取り組んでいる大学等の教育機関の先行事例調査、デザイン経営に取り組む先進的な企業に対するニーズ調査等を行い、取り組みの現状及び課題等について把握した。

次に、カリキュラム開発を行うため、学識者、デザイナー等をメンバーとする『「若手デザイナーのための知財マネジメント講座」カリキュラム検討・評価委員会』(委員長：神戸芸術工科大学 大田尚作 教授)を設置し、今後養成すべき人材像やカリキュラム素案等の開発・検討を行った。

さらに、開発したカリキュラムを評価するため、大学生・社会人のデザイナー等延べ42名の参加を得て「オリジナルデザインで生き抜く『デザイン道場』」と題して、知的財産権やデザインマネジメントに関する9科目からなる短期集中講座を開講し、事後評価も行った。

今後、本報告書を受けて、デザインの知の拠点である関西の芸術系大学等で、本カリキュラムが広く活用されることを期待するものである。